

# 精神障害に対する 態度測定尺度(AMD尺度) の順序構造分析

小平朋江 (聖隷クリストファー大学)

いとうたけひこ (和光大学)

北風菜穂子 (明治学院大学大学院)

大野 順 (杜の里)

日本教育心理学会第52回総会

口頭発表 K078 社会心理学3

2010年8月27日(金) 13:00-15:30

早稲田大学 早稲田キャンパス10号館-205室

# 問題①AMD尺度

- 東口・森河・中川(1997)によって作成された、精神障害(者)に対する態度についての測定尺度(以下、AMD尺度)は、当初25項目であったが、北岡(東口)(2001)以降では、20項目2因子の尺度として用いられてきている(北岡(東口)・森河・三浦・西条・田畑・中川・中川 2001;北岡(東口)・谷本・林・栗田 2003;北岡(東口)・谷本・栗田 2001;小平・伊藤2009;小平・いとう2010;小平・伊藤・松上 2007;小平・伊藤・松上・井上 2007;大高・伊藤 2009;大和田 2010)。信頼性と妥当性が高い尺度であるAMD尺度は、偏見の強さを測定するために、2因子の平均値が問題とされてきており、各因子のそれぞれの10項目間の関連については吟味されてこなかった。しかし、各因子の項目は精選されたものであり(北岡(東口)2001)、それぞれの項目間の関連を見ることは興味深い。

# 問題② 順序構造分析

- 戸田・酒井・やまだ(2009)は、「順序構造分析」という手法を編み出した。順序構造分析とは事象間の順序性を検討する手法である。項目数は2項目から、回答者数は数十名程度からと、比較的小規模のデータの分析に適しており、2値データだけでなく多値データにも適用が可能である。また、途中で枝分かれしたり再び合流するような複雑な順序構造も表現可能である。順序構造分析の手順は以下の通りである。
- ① 分析対象となる測定項目群から抽出することのできる、2項目のペア全てについて、項目間に順序性が成り立っているか否かを判定する。順序性が成り立っている2項目を「ブロック」と呼ぶ。
- ② 「ブロック」どうしの関係に着目することにより、「ブロック」がいくつか組み合わさってできているような、より複雑な順序構造(「ストラクチャ」と呼ぶ)を見出す。
- ③ 最後に、見出されたストラクチャと、実際のデータとの適合度を検討する。

# 目的

- 本研究では10項目からなるAMD尺度の2つの下位尺度に着目した。
- 各下位尺度の項目間の関連が順序構造をどのように持つかを明らかにすることは興味深い。
- そこで本研究では、順序構造分析を用いてAMD尺度の2つの下位尺度の項目間の関係を可視化し、その連関構造を明らかにすることを目的とする。

# 方法① 順序構造の操作的定義

- 戸田・酒井・やまだ(2009)の手順に従い、「2項目間に順序性がある」の2条件について、「差異条件」としてt検定によって得られたt値の絶対値の大きさを採用し、「相関条件」については相関分析によって得られた相関係数の大きさを基準値とした順序構造分析を用いて、2つの下位尺度である「社会的距離尺度」と「イメージ尺度」の各々について項目間の順序性を判定した。今回は、社会的距離尺度とイメージ尺度の事前テストの順序構造を分析した。操作的定義として、t値の絶対値が2以上であり、かつ相関係数が.4以上であるという2条件を満たした項目間のペアに順序性があると規定した。

## 方法② 研究協力者と質問紙

- **研究協力者** 文系大学生42人と看護大学生84人の126人。
- **質問紙** 事前・事後に共通して下位尺度として0-3の4択から構成される社会的距離尺度10項目と、イメージ尺度10項目である「精神障害に対する態度測定尺度」(AMD尺度:北岡, 2001)。
- 北岡(東口)和代 2001 精神障害者への態度に及ぼす接触経験の効果 *精神障害とリハビリテーション*, 5(2), 142-147.

# 方法③ 手続き

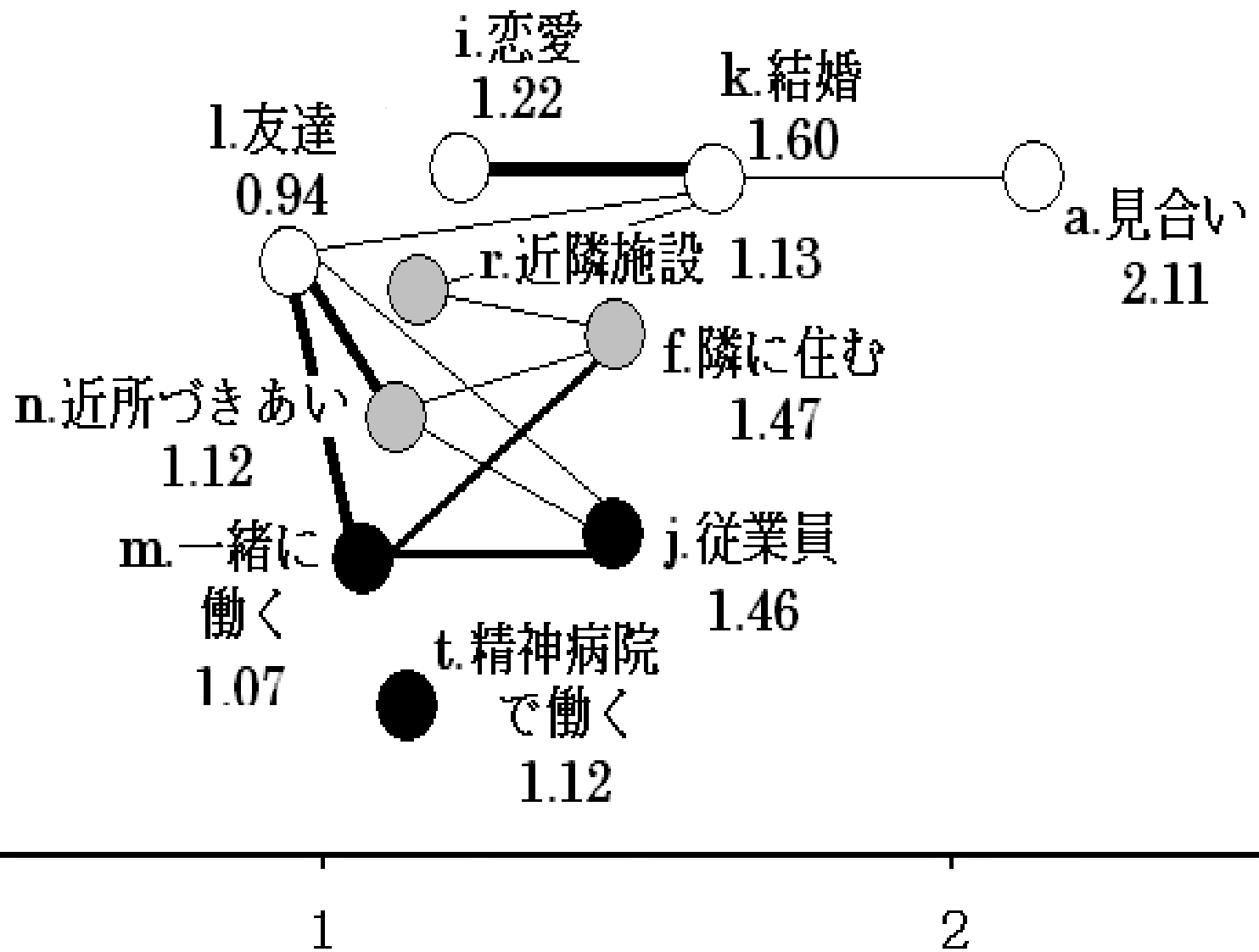
- [手続き]
- 2009年10-11月の授業終了後にまず被験者に1回目の質問紙を実施した。その後、教材を手渡しして読んでくるようお願いし、翌週2回目の質問紙を実施した。今回は事前テストのみを分析した。
- [倫理的配慮]
- 聖隷クリストファー大学倫理委員会の審査を経た。

# 結果

- Fig. 1は社会的距離尺度について、項目間の関係をパイプ図に準じた流れ図に表したものである。ラインの太さは相関の強さを表し、太さは3段階である。太い順に相関係数の値が、.6以上、.5以上.6未満、.4以上.5未満の3段階になっており、項目間の関連の強さを示している。



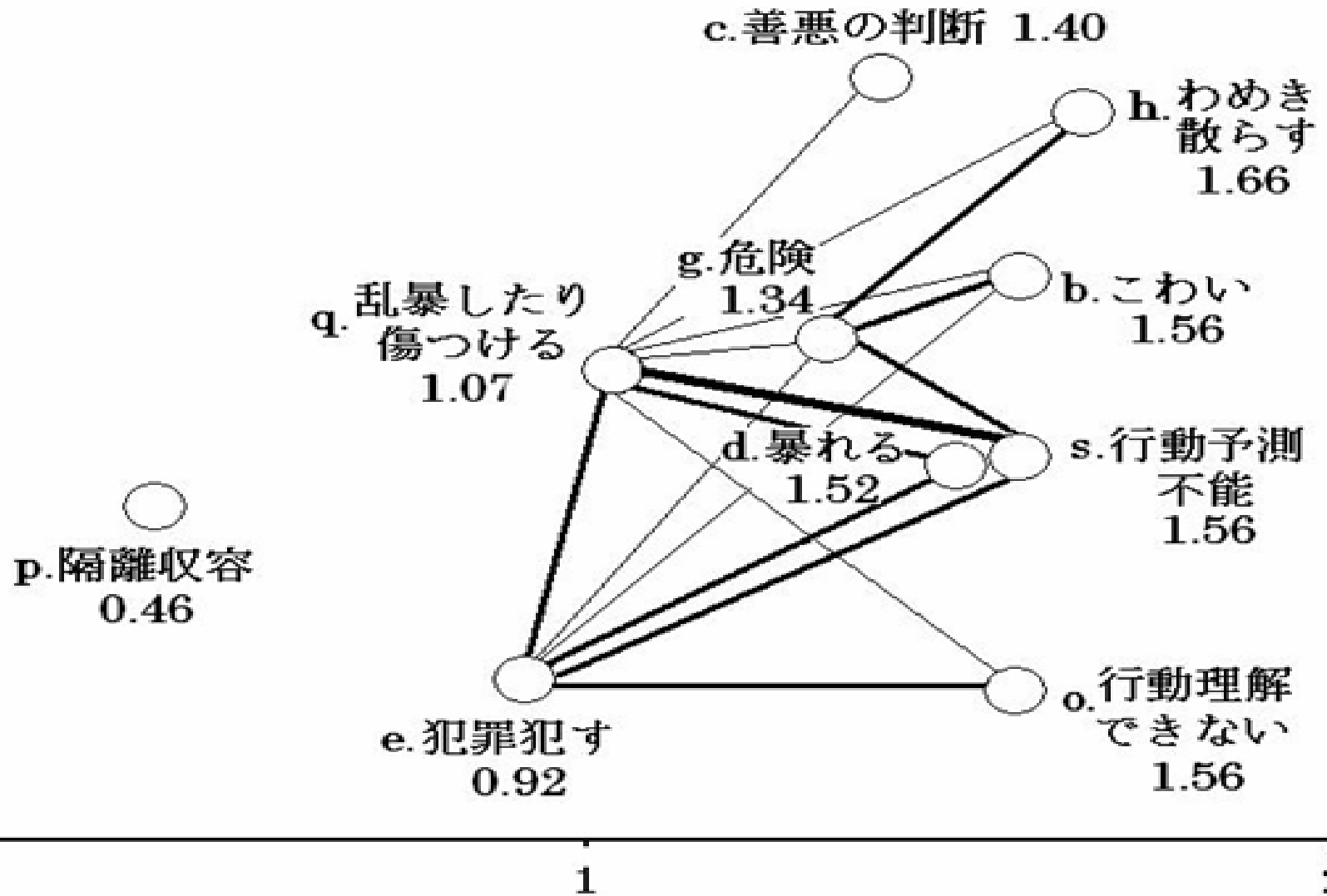
Fig.1 社会的距離尺度の順序構造分析の結果



# 結果① 社会的距離 (Fig 1)

- また、各項目を表す円の左右の位置は0-3の範囲の値をとる回答の平均値を表している。円の位置の高低には統計的意味は無い。社会的距離が大きい回答が多い項目ほど図の右方に位置する。○は個人的交友に関する項目、●は職場関係、中間色は近隣のコミュニティに関連するということのように、3つの領域が順序構造分析において示された。

# Fig.2 イメージ尺度の順序構造分析の結果



# 結果 イメージ尺度 (Fig. 2)

- Fig. 2では、イメージ尺度について同様に順序構造分析の結果を図示した。精神障害者のイメージとして、隔離収容をすべきという意見はさすがに少ないものの、行動の理解や予測の難しさに恐怖感があるという学生が多いこと、また「乱暴をする」とことと「犯罪を犯しやすい」というイメージが、他の多くのイメージ項目とブロックを形成していた。

# 考察

- 社会的距離尺度の分析では、精神障害を持つ人々に対する多様な社会的距離の取り方があることを示唆している。見合いが結婚よりも抵抗感が強かったことは、見合いの歴史的変遷をふまえて、尺度を再考する必要性が指摘されよう。
- イメージ尺度では、「乱暴をする」と「犯罪を犯しやすい」というイメージが、他の多くのイメージ項目と結びついており、精神障害者に対する中核的なマイナスイメージであることが推測された。
- 順序構造分析では、心理学研究での因子分析に代表される要約的なアプローチとは違った、項目の個別性を重視した項目間の順序性に着眼した分析が可能である。医学や看護学では質問項目そのものと、項目間の関係を知りたいという場合も多い。本研究では、看護学などの実質科学的な現実性に根ざした応用心理学的アプローチのツールとして、順序構造分析の可能性をあきらかにすることができた。

# 文献

- 東口・森河・中川(1997) 精神障害(者)に対する態度についての尺度測定尺度の作成:信頼性と妥当性の検討 心と社会, 28(3), 110-118.
- 北岡(東口)和代 2001 精神障害者への態度に及ぼす接触経験の効果 精神障害とリハビリテーション, 5(2), 142-147.
- 小平朋江・いとうたけひこ(準備中)マンガ教材 中村ユキ『わが家の母はビョーキです』読了後の統合失調症に対する偏見の変化
- 戸田有一・酒井恵子・やまだようこ 2009 心理学研究における順序構造分析の提案と課題 日本教育心理学会第51回総会発表論文集, 303.